

## 審査の結果の要旨

キタ 幸子

本研究は産後の育児行動への影響が著しいと考えられる妊娠期のパートナーからの暴力 (Intimate Partner Violence: IPV) と虐待的育児行動や育児困難感との関連が報告される新生児へのボンディング不全及び産後うつ症状との関係性を明らかにするために、妊娠後期と産後1か月の縦断観察調査を実施し、共分散構造分析を用いて解析したものである。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 妊娠期の IPV は新生児へのボンディング不全と関連した。
2. 妊娠期の IPV は、妊娠期うつ症状を媒介し、新生児へのボンディング不全・産後うつ症状と関連した。
3. 新生児へのボンディング不全と産後うつ症状の誤差変数間に正の相関があった。
4. 初産婦と高齢は産後の新生児へのボンディング不全・産後うつ症状の下位尺度に関連した。
5. 未婚・経産婦と妊娠期の IPV は相関した。
6. 出産歴と年齢は正に相関した。

以上、本論文では、妊娠期の IPV は新生児へのボンディング不全と関連したこと、更に妊娠期の IPV は、妊娠期うつ症状を媒介し、新生児へのボンディング不全及び産後うつ症状と関連したことが明らかになった。本結果は、新生児へのボンディング不全・産後うつ症状予防に向けて、妊娠期の IPV への介入や IPV 被害妊婦に対する精神的ケアの重要性を示唆する重要な知見であった。本論文は、未だ確立されていない産科医療現場での IPV 被害妊婦に対する効果的なケア・介入方法の開発に向けて重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。